

《担当者名》 佐々木祐二 y-sasaki@hoku-iryo-u.ac.jp 吉田晋 大須田祐亮 岩部達也 中村宅雄 佐藤一成 只石朋仁  
阿部隆宏 谷口翔平 用田歩

## 【概要】

評価は、効果的な理学療法を実施するうえできわめて重要な理学療法プロセスに位置づけられる。本科目では、評価の意義や目的、その一連の進め方（情報収集、記録、結果の統合と解釈、再評価まで）について学修する。また、理学療法における基本的検査・測定技術である反射・病的反射、感覚・知覚検査、協調性検査、脳神経検査、姿勢反射・バランス・平衡機能検査、筋緊張・運動麻痺検査、姿勢観察・分析、動作観察・分析、歩行観察・分析について講義および演習を通して習得する。

## 【学修目標】

## &lt;一般目標&gt;

理学療法評価を実施するために、各種検査法を理解し、実施することができる。

## &lt;行動目標&gt;

1. 理学療法における評価の意義と目的を説明できる。
2. スタンダードプリコーションの目的を説明し、実施できる。
3. 各検査項目の目的を説明し、基本的手技を実施できる。
4. 姿勢観察・分析、動作観察・分析、歩行観察・分析の目的を説明し、基本的手技を実施できる。
5. 対象者の評価結果を記録できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 2	オリエンテーション スタンダードプリコーション バイタルチェック	本授業の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法の説明を行う。 スタンダードプリコーション・バイタルチェックの目的を説明できる。	担当者全員
3 ) 4	姿勢観察・分析	静的姿勢観察・分析の目的を説明し、基本的手技を実施できる。	担当者全員
5 ) 6	感覚検査・知覚検査 脳神経検査 疼痛評価	感覚検査、知覚検査の目的を説明し、基本的手技を実施できる。 脳神経検査の目的を説明し、基本的手技を実施できる。 疼痛評価の目的を説明し、基本的手技を実施できる。	担当者全員
7 ) 8	反射検査 病的反射検査 筋緊張検査	表在反射、深部反射、病的反射検査の目的を説明し、基本的手技を実施できる。 筋緊張検査の目的を説明し、基本的手技を実施できる。	担当者全員
9 ) 10	運動麻痺検査	運動麻痺検査の目的を説明し、基本的手技を実施できる。	担当者全員
11 ) 12	協調性検査	協調性検査の目的を説明し、基本的手技を実施できる。	担当者全員
13 ) 16	バランス検査 姿勢反射検査 平衡機能検査	バランス検査の目的を説明し、基本的手技を実施できる。 姿勢反射検査、平衡機能検査の目的を説明し、基本的手技を実施できる。	担当者全員
17 ) 18	総合演習	各検査に関する総合演習を行う。	担当者全員
19 ) 20	総合演習	各検査に関する総合演習を行う。 (実技テスト有り)	担当者全員

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
21 }	総合演習	各検査に関する総合演習の振り返りを行う。	担当者全員
22			
23 }	量的歩行分析	量的歩行分析の目的を説明し、実施できる。	担当者全員
24			
25 }	動作観察・分析	動作観察・分析の目的を説明し、実施できる。	担当者全員
26			
27 }	質的歩行分析	質的歩行分析の目的を説明し、実施できる。	担当者全員
28			
29 }	評価の記録	対象者の評価結果の記録方法を説明し、実施できる。	担当者全員
30			

#### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

筆記試験50%

実技試験50%

試験に関するフィードバックの方法

- ・定期試験および追再試験実施後、問合わせがあった際には模範解答を開示する。

#### 【教科書】

月城慶一 他 訳「観察による歩行分析」 医学書院 2005年

上月正博 他 編著 「リハビリテーションにおける評価 Ver.3」 医歯薬出版 2016年

松澤正 他 著 「理学療法評価学」 金原出版 2016年

才藤栄一 監修 「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定 編」 金原出版 2015年

#### 【参考書】

畠中泰彦 編 「PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析」 羊土社 2015年

#### 【備考】

実習で使用するため、打診器を購入すること。

「運動麻痺検査」までを前期に実施する。

「バランス検査」以降を後期に実施する。

#### 【学修の準備】

指定された教科書を用いて、次回授業範囲を必ず予習すること（80分）。

復習は、プリント、講義メモ並びに教科書、参考図書を活用して実技練習も含め学習を深めること（80分）。

#### 【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

#### 【実務経験】

佐々木祐二（理学療法士） 吉田晋（理学療法士） 大須田祐亮（理学療法士） 岩部達也（理学療法士） 中村宅雄（理学療法士） 佐藤一成（理学療法士） 只石朋仁（理学療法士） 阿部隆宏（理学療法士） 谷口翔平（理学療法士） 用田歩（理学療法士）

#### 【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、理学療法プロセスの基礎となる評価の方法について、基本的知識の講義及び実技を指導する。